Nippon Sport Science University

東京都保護者会報

2025.3.1
vol. 36

発　行　者 ● 日本体育大学東京都保護者会
お問合せ先 ● nssu.apg.tokyo@gmail.com
タイトルロゴ ● 越水 春汀

- 「大学は運命を変える」
- 「東京都保護者会の皆様へ」
- 保護者会活動紹介
- 第61回体育研究発表実演会in横浜アリーナ
- 第101回東京箱根間往復大学駅伝競走
- 健志台キャンパスツアー見学会
- 体操部第56回演技発表会

部活動紹介

バスケットボール部男子
応援団部
女子アイスホッケー部
ライフセービング部
ダブルダッチ部
ダンス部

大学は運命を変える

学校法人 日本体育大学　理事長
松浪 健四郎

運命を変える

1965年(昭和40年)に日体大に入学した。スポーツ好きの私を見ていた父親(会計士)は、「体育教師になれ!」と言う。東京五輪で観たレスリングもしたかったので、迷うことなく日体大を選択した。強くなれば、先輩たちのようにオリンピアンになれると胸をはずませての入学であった。が、厳しい寮生活、ポツリ、ポツリと夜逃げする同級生が続いた。

私は考えたこと、思ったことを言葉にして同級生たちに伝えた。「五輪に出て、留学して教師になる」。友だちは、私のニックネームを「ホラマツ」と命名した。話が大きいという評価であった。入学と同時に柔道からレスリングに転向した素人の私など、高校のエリートレスラーからすれば眼中にない存在。でも、必死になって口にした発言を現実のものにすべく努力した。熱心に練習をする行動力、やがて頭角を現わす。ハードな練習を日常のものとする行動力、それは習慣となる。

習慣が周囲のチームメイトたちに認められると、それが私の人格となった。その人格が定着すると、「ホラマツ」のニックネームは消失して行く。海外遠征日本代表になったり、米国の東ミシガン州立大に留学(2年間)したりして五輪を目指す。が、私は敗れた。けれども、その敗戦は私の運命を変えることとなった。人間万事塞翁が馬、考えもしなかった方向へ進むこととなる。

方向転換する

当時、東大、東京教育大(筑波大)、日大に体育学の大学院が設置されていた。世田谷の下高井戸に日大大学院があり、その修士課程に進学する。格闘技の歴史を勉強しようと決意したのである。しかし、大学院での生活は、予想以上に厳しく、毎日のように国会図書館に足を運ぶ。修士論文を書くと、担当教授は「博士課程へ進学しなさい」と言う。修業年限は3年、同級生たちは教員として活躍していた。学者へ転身するための準備、骨の折れる日々だったと述懐する。

私は博士課程の3年次のおり、結婚した。すると、博士課程終了と同時、外務省・国際交流基金から要請が届く。「アフガニスタン国立カブール大学で体育学とレスリングを指導する任務」である。家内と旅立ち、3年間の任務をまっとうする。多くの教え子を持ち、アフガンの知識も豊富になる。イスラム教の身体観、砂漠の文化等、日本で学べないことをフィールドワークを通して学ぶ。

国際人として行動

アフガンから帰国すると、専修大学からスカウトされる。40歳で教授になったが、アフガンにソ連が軍事侵攻して以来、教え子たちがゲリラとなって戦うので協力する。英語とペルシャ語を身につけた私は、往来を繰り返し、アフガン問題をマスコミで語るようになる。やがて、ＴＶにレギュラー番組を持ち、タレント教授とも言われた。エバラ焼き肉のタレや紳士服エフワンのＣＭにも起用された。

ＮＨＫの人気番組「日本人の質問」のレギュラー出演者になると、仕事が次から次へと入る。だが、アフガンの戦況は困難になるばかりで、教え子たちの不幸の情報が相次ぐ。アフガンを救うには、政治家になって日本政府を動かすしか手はないと考えるようになる。

政治家への転身

48歳で専修大を去った。故郷の大阪に帰って、衆議院の解散を待つ。50歳になった日に、私は代議士に当選した。アフガン支援に乗り出し、緒方貞子女史と共に平和をさぐった。サッカーくじ法案を成立させ、スポーツ振興に寄与することもできた。スポーツ振興法作りにも参画した。臓器移植法案成立にも情熱を捧げた。外務大臣政務官をはじめ、文部科学副大臣を二度経験、自民党副幹事長等を歴任したが、私の４度目の選挙で自民党が敗北した際、私も落選した。けれども様々な経験をさせていただいたうえに、多方面での人脈が財産となるくらい顔が広まった。

理事長に就任する

国会から離れた私に、母校日体大から理事長就任の話。私はお断りしたが、恩師たちの押しに受諾することとなった。これも私の運命なのであろう。経験、人脈、知識、すべてを投入し、今村常務理事とタッグを組んで日体大改革に乗り出す。母校への恩返し、魅力ある大学にするため全力投球する。誇れる大学にしたい。「身体にまつわる文化と科学の総合大学」にして歴史を重ねて行く。

日本体育大学東京都保護者会の皆様へ

日本体育大学東京都保護者会　会長
福本 記子

日頃より、保護者会活動にご理解、ご協力を頂き誠にありがとうございます。

今年度、会長を務めさせて頂いております福本記子と申します。私の息子が日本体育大学に入学して、授業と創部したキンボールクラブの活動の為に、ほとんど毎日のように健志台キャンパスに通って充実した日々を過ごしている姿を見ておりましたが、もう卒業を迎える時期となりました。

そして私も、保護者会を通じて同じ日体大生を持つ親御さんと出会い、とても楽しく活動に参加させて頂きました。

昨秋、健志台キャンパス見学会を企画し、大勢の保護者の方にお越し頂きました。硬式野球部の方に案内されたキャンパスには、元気でたくましいたくさんの学生さんがスポーツをしていらっしゃって、私も爽やかな気持ちになりました。

中央にそびえた新しく建設中の大きな「アカデミック・コア棟」は、教室はもちろん、図書館、学食など様々な施設を集約し充実した校舎になるそうで、設備の素晴らしさを実感しました。全て完成した時には、是非訪れて、見学させて頂きたいなと思いました。

私達東京都保護者会は月に1回、世田谷キャンパスで役員会を開催し、総会やキャンパス見学会、講演会の企画・運営及び会報誌の発行をしております。

またそれだけではなく、一緒に日体大生が活躍する部活等の大会の応援などに出かけ、親睦を深めております。

このように、楽しみながら「日体大」を知ることができますので、ぜひ活動に参加してみませんか。

役員は随時募集しておりますので、ご興味のある方は、一度役員会にお越しください。お待ちしております。

最後になりますが、保護者会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

保護者会活動紹介

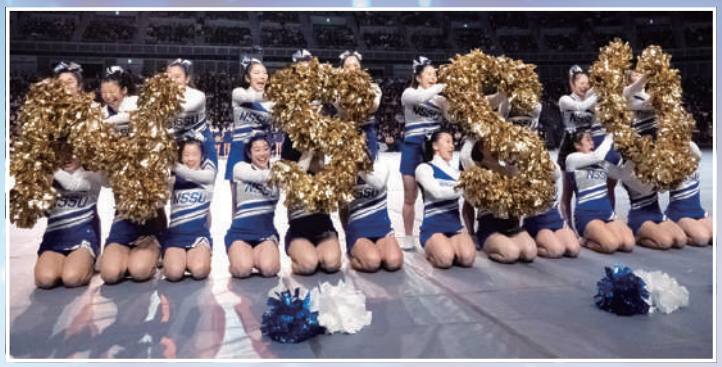
ここでは日々どのような活動をしているのかについてご紹介します。

役員会	月1回開催されます。キャンパス見学会の企画・運営、会報誌発行、定期総会の準備に向けた打ち合わせを行っています。
キャンパス見学会	学生たちがどのような環境下で学んでいるかを保護者の方々にも知っていただく機会として実施しています。
	1年ごとに世田谷キャンパスと健志台キャンパスを交互に行っており、日体大を身近に感じて頂ける様、学食体験、キャリア支援公演なども実施しています。
応援	各部活動の応援に参加し、その競技の魅力を味わいます。
その他	日体大フェスティバル、体育研究発表実演会、体操部演技発表会等への参加、観覧を行います。
会報誌の発行	毎年3月に広報誌を発行しています。各イベントの参加に関し、役員記事を作成しています。
定期総会	毎年6月に1年間の活動を締めくくる定期総会を開催しています。1年間の活動報告、会計報告を行います。

このような活動を通じ、学生たちの健全な育成の為、大学と保護者、保護者同士の交流と親睦を深めることを目的に活動しています。

第61回体育研究発表実演会in横浜アリーナ

近藤（2年保護者）



2024年11月26日（火）横浜アリーナにて第61回体育研究発表実演会が開催されました。人づてに『実演会は絶対みるべき！！』『感動するよ！』と言われていたので、初参加の私は少しでも見やすい席を・・と、開演2時間以上前に横浜アリーナへ到着。

案内の方々に促されるように自分の入場口方面へ行くと、すでにすごい人が並んでいる！！

実演会を楽しみにしている方々のワクワク感が並んでいる時から伝わってきます。

テーマは【TOGETHER－共に－】

プロローグセレモニーとして救急医療サークルの皆さんによる救急時のトリアージ説明と陸上自衛隊の音楽隊の方々によるロッキーのテーマ曲！！実演会のスタートを熱く盛り上げます。

実演会は日本トップレベルの実力を誇る体操演技からスタートし、アリーナの高い天井にも届きそうなジャンプを見せるトランポリン、体の柔軟性をこれでもか・・と感じさせる新体操やチアの演技・・など、1つ1つが素晴らしく、演技ごとに喝采の拍手が起こります。

歩く芸術と言われている集団行動では一糸乱れぬ動きでありながら列を乱さずに交差、列の変形、交差・・・などの美しいパフォーマンスにさらに感動。ここまで出来るようになる為の努力はどれほどの事か・・・

オリンピックイヤーであった今年はオリンピック　パラリンピックのメダリスト達の報告会もあり、間近でメダリスト達を見る機会にも恵まれてラッキー！

最後は日体大の伝統で名物でもある『エッサッサ』で若さ溢れるパワーをいただきました。

『実演会は絶対みるべき！！』は嘘ではなかったを実感した2時間でした。

日頃から練習にひたむきに向き合っている生徒さん達とその指導と育成に取り組んでおられる教職員の方々に【感動をありがとう！！】と改めてお伝えさせていただきます。

引き続き、末永く実演会が開催されますことを保護者の一人として応援しております。

パリ五輪・パラリンピックには、日体大関係者が48人出場して私達に多くの感動を与えてくれました。実演会には、そのうち23人が出席して下さり、あの時の感動秘話を語ってくれました。

（青字は、出席者　太字は、在校生）

オリンピック出場選手

レスリング	文田 健一郎	柔道	阿部 一二三
	日下　尚		阿部　詩
	曽我部 京太郎	飛び込み	坂井　丞
	樋口　黎		**三上 紗也可**
	清岡 幸太郎	体操競技	**牛奥　小羽**
	藤波　朱理	フェンシング	東　晟良
アーチェリー	**斉藤　史弥**	トライアスロン	小田倉　真
オープンウォーター	南出　大伸	自転車競技	畠山　紗英
	蝦名　愛梨		川口 うらら
水球	足立　聖弥	バレーボール	高橋　藍
	渡辺　太陽		山本　智大
	荻原　大地	ハンドボール	元木　博紀
	鈴木　透生		**藤坂　尚輝**
	伊達　清武	陸上競技	福部　真子
	髙田　充	ラグビー	石田　大河
	大川　慶悟		田中　笑伊
	荒木　健太		堤　ほの花
	西村　永遠		平野　優芽
ゴルフ	中島　啓太		松田　凛日

パラリンピック出場選手

競泳	窪田　幸太	陸上競技	**福永　凌太**
	富田　宇宙		新保　大和
卓球	友野　有理		兎澤　朋美
バドミントン	今井　太湧		辻　沙絵
	梶原　大暉	馬術	吉越　奏詞

第101回東京箱根間往復大学駅伝競走

石山（4年保護者）

「第101回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」

2024年10月19日(土)

予選会は、陸上自衛隊立川駐屯地から立川市街地、国営昭和記念公園の21.0975㎞を走るハーフマラソン。43校が出場、上位10校が本選の出場権を獲得します。

立ち入り禁止のため、陸上自衛隊立川駐屯地のスタートは見られません。遠くで鳴り響くスタートの合図からしばらくして留学生のトップ集団が現れ、直後選手たちが次々と現れました。沿道で部員が選手の名前を呼び励ます姿に感動しました。強い日照りと蒸し暑さが選手を苦しめましたが、最後まで頑張りを見せました。その後の報告会で「日本体育大学4位」と発表があると、会場からは大歓声があがります。日本体育大学は1949年以来、77年連続本選出場が決定しました。

「第101回東京箱根間往復大学駅伝競走」

2025年1月2日(木)～3日(金)

本選は、応援団部のチャーターバスに同乗させていただきました。大手町で応援団部、チアリーダー部、ブラスバンド部の団結した応援合戦の迫力に圧倒。スタートの合図が鳴り響くと、中継車に続き、選手がものすごいスピードで駆け抜けていきます。沿道の応援は途切れることがありません。一瞬の選手の走りが応援と重なって、人々に感動を与えるのを実感しました。

3日の早朝、復路スタート地点へ。先導前の白バイクの列に圧倒されました。箱根の山道では至るところに日体大の旗が見えます。とぎれない応援こそが、選手に元気と勇気を与えてくれるのでしょう。

風のように走り去る選手に手を振って再び大手町へ向かいます。雨が降りそうでしたが、皆様の思いが届いたのか、天気は持ちました。疲れを見せない応援団部、笑顔と元気を絶やさないチアリーダー部、力強い音を奏でるブラスバンド部が日本一の応援で華を添えます。

駅伝の結果は、往路10位、復路9位、総合成績12位。総合10位までがシード校となるため、シード権獲得はかないませんでしたが、前回の総合16位から確実に順位を上げました。

観戦終了後、監督、学長、応援団部、サポートする関係者の方々、後日選手からも感謝のお言葉をいただきました。スポーツと笑顔は、勇気と元気と生きる力を授けてくださいます。とても気持ちのいい新年の始まりを迎え、ますます日体大を応援したくなりました。これからも頑張ってください。フレーフレー NITTAI！

2024年健志台キャンパス見学会フォトギャラリー

中村（2年保護者）

11月30日(土)、好天に恵まれ健志台にてキャンパス見学会を開催いたしました。

138名の方が参加くださり、野球部員の案内で日頃の学校生活や部活動の話などたくさんの話をしながら、広大なキャンパスを歩きました。その後、学生気分で学食「グレートライオン」にておいしい食事をいただきました。

ご協力くださった方々、ご参加くださった方々、ありがとうございました。

学友会体操部第56回演技発表会

藤井（3年保護者）

11月4日(月)国立代々木競技場第2体育館にて、体操部の第56回演技発表会が行われました。

今回のテーマは「老若男女みんなで体操」です。

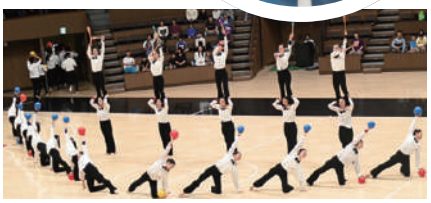
特別プログラムでは、幼児たちが部員と一緒にボールやゴース、フロアを使って楽しく身体を動かしていました。

ゲストには、運動遊びプロフェッショナルユニットのSOS。今年から女性が加わったお～るど・ボーイズ&ガールズ。テーマにそった元気一杯の演技を見せてくれました。町田市一般体操・リズム運動連盟の方たちの演技は、ゆったりとした動きに見惚れました。

そして体操部の演目は5つ。器具体操はとび箱やマットを使って縦横無尽に駆け回り力強い演技でした。

女子徒手体操は、しなやかで美しい女性らしい動きに魅せられ、男子徒手体操は、男性らしい力強さとスピード感があふれた動きに心躍りました。最後のGym-mix２０２４は、徒手体操・タンブリング・手具体操・組立体操の要素が取り入れられた演技で、部員86名、１年生から4年生まで一人一人が主役となって、一糸乱れぬ動きとダイナミックな演技に心が熱くなりました。本当に「世界に一つの集団美」でした。

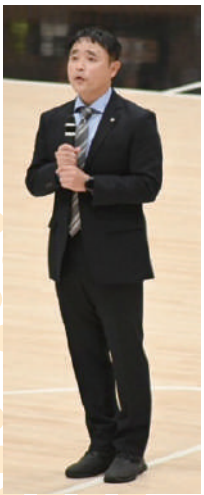
佐藤弘道さんの司会進行で会場の声援、大きな拍手を受け、一人一人が輝いていました。素晴らしい時間をありがとう！！



日本体育大学体操部 部長　三宅 良輔 先生

今年も「第56回演技発表会」を国立代々木競技場第二体育館にて盛大に開催することが出来ました。お世話になりました関係者の皆様にお礼申し上げます。

部員保護者の皆様にも練習やミーティングで夜遅くなることも多くご心配かけることが多々ありましたが、その努力の成果を発表会でご覧いただけたと思います。体操部はこれからも学生らの健全な心身の育成を努めて参ります。今後とも応援よろしくお願いいたします。



バスケットボール部 男子

杉本（1年保護者）

創部は1926年（大正15年）。まもなく100年目を迎えるチームはインカレ14回の優勝を成し遂げこれまでに多くの指導者、日本代表選手、Bリーグ選手を輩出してきました。

2024年8月開幕の第100回関東大学バスケットボールリーグ戦では、保護者会の方々とスタンドから声援をおくるなかLIONSらしいアップテンポな試合展開にて最終戦である専修大学にも勝利し堂々とリーグ優勝。高々とトロフィーを掲げる歓喜の輪の中には学生コーチ、マネジャーら学生スタッフの姿もあり、共に高みを目指すチームの結束力を感じました。次なるはインカレ制覇へと向かうLIONSに期待は高まります。

ここにチームを率いる監督の藤田先生より東京都保護者会にいただきましたコメントを記させていただきます。

日本体育大学バスケットボール部（LIONS）部長・男子部監督の藤田将弘でございます。

私が14年前（2010年）にクラブ監督に就任後、成績不振を脱却すべく抜本的な改革案が必要であると考えビジネス再建モデルに着眼もしながら急激な変化を求めず現場に落とし込む作業を進めています。2部リーグから1部リーグへと昇格後は、順調に強化策にも変化を持たせ、2024年度は関東トーナメント２連覇達成、リーグ戦では25年振り25回目の優勝を成し遂げることが出来ました。現在の取り組みが未来へ繋がる様に時代や社会情勢の変化へも対応しつつ邁進していく所存です。また、本学の卒業生（同窓）の高等学校からも多くの志の高い人材を本学への導きを頂いていますことは、無上の喜びであります。

今後も、本学学生たちが勉学やクラブ活動に打ち込めるようお力添えをお願い致します。

応援団部

牛尾（1年保護者）

みなさんは応援団の存在をご存知ですか？学ランを着たパンチパーマや角刈りの厳つい男達の集団を想像していませんか？現在では学ランという伝統を受け継ぎ、髪型を七三分けなどにビシッと決めた好青年のイメージになりました。そんな学生達が同世代の選手を応援している姿がとても頼もしく格好良く見えます。

今回そんな応援団の団長さん、監督さんに質問を投げかけ、コメントをいただきました。

応援団団長：増田健太郎

日本体育大学応援団は応援団部、ブラスバンド部、チアリーダー部の3部から構成されており、全国から集う本学学生の応援や学外イベントなど、活動は多岐にわたります。主な応援活動としては硬式野球部の応援や、各種駅伝応援、相撲応援、ボート応援などがあります。その他にも学内で行われる壮行会や祝勝会でのエールや入学式などの式典、オープンキャンパスや日体フェスティバルなどの学内イベントでも活動しております。現在、応援団部の団員数は4年2名、2年1名、1年2名の計5名で活動しております。

応援団は入れば全員がレギュラーです。応援活動では選手からの「ありがとう」や「力になった」そんな言葉のみで全てが報われ、やりがいになっていきます。あなたも日体大の中心で日体大を盛り上げてみませんか。

応援団部監督：鈴木憲一

何度か団員不足による休部危機はあったのですが、令和２年度、４年生２名だけとなり、勧誘に全力で取り組もうとしていた矢先に、コロナによる休校。この1年間は何も出来ず廃部も覚悟していましたが、学友会から一人助っ人が現れたのと同時に、入団希望の新人が無事合格してくれた事によって首の皮一枚繋がって今に至ります。その新人が今の４年生幹部です。直接の先輩がいない中、ＯＢに手伝ってもらいながら、よくここまで頑張ってくれました。大学応援団も残念ですが数える程度しか無くなってしまいました。昔のようなイメージはもうありませんが、個の時代とも言える今、団員確保は至難の業になっています。需要に追い付かない状況ですが、少数精鋭の意気で臨んでもらいたいです。

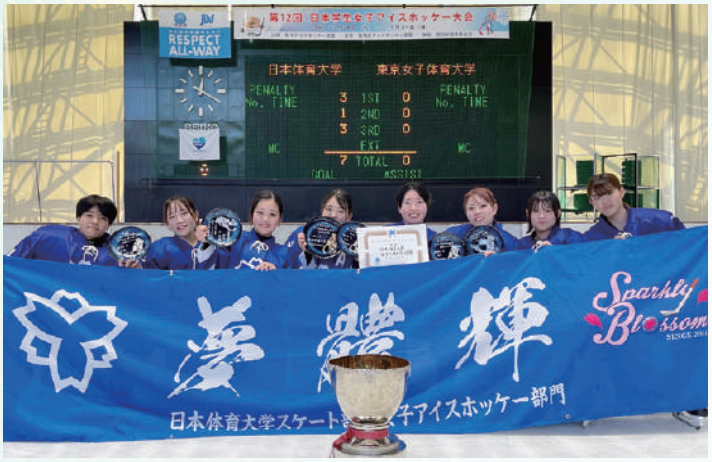
女子アイスホッケー部

高橋（1年保護者）

11月20日（水）～24日（日）の5日間、第12回日本学生女子アイスホッケー大会が福岡県総合プールスケートリンクにて開催され、全国から16チームが参加しました。スケート部女子アイスホッケー部門『日体大桜ガールズ』は2014年に創部。その年の第２回大会で初出場初優勝を目指しましたが惜しくも決勝戦で東京女子体育大学に1点及ばす準優勝スタート。翌年の第3回大会で初優勝を果たすと現在大会８連覇中（コロナで1大会中止）。今大会では9連覇の期待が高まる中、深夜の練習にも関わらず常に笑顔を絶やさず努力を重ねてきました。初戦の獨協大学に11-0、翌日の山口大学には22-0、予選最終日には酪農学園大学に17-0と予選リーグプールAで1位通過を果たし決勝トーナメントに駒を進めました。準決勝戦では岡山大学に10-0とここまで全ての試合で失点0。決勝戦では東京女子体育大学に7－0で完封勝利し、5試合無失点完全優勝で全16チームの頂点に立ち、大会9連覇を成し遂げました。

笑顔いっぱいでプレーできるのがこの日体大桜ガールズの素晴らしいところです。

保護者として誇らしい自慢のチームに、いつもありがとうを伝えたいと思います。



ライフセービング部

大岡（2年保護者）

『ゴールの先に救う生命がある』

総勢81人の部員は水辺の安全を守るライフセーバーです。夏季の約１カ月間、部員はそれぞれ自治体が管轄する海水浴場に分かれて監視活動を行います。仲間たちと共同生活をしながら水辺での事故を未然に防ぎ、誰もが安心して楽しめるように助言し見守ります。そのために、日々、ライフセービング活動におけるレスキューの技術向上、体力向上のためのトレーニングに励みます。また、マラソン大会の救護ボランティアなどにも参加します。

そして、ライフセービングスポーツとしての大会もあり、海とプールで行われます。その種目には、レスキューチューブ、レスキューボード、ロープ、溺者に見立てたマネキンなどを使用したレースや、ビーチフラッグス、ビーチランなどがあります。またSERCという大会もあり多岐にわたります。

その全てはレスキュー（救助活動）を想定した種目で、生命を救うために１秒でも速く確実に迅速な対応（ゴール）を目指すために行われます。

「SERC」（Simulated Emergency Response Competitionの略）という緊急事態を想定したシュミレーションの大会は、プールで事前に知らされていない事故現場が設定され、４人１チーム２分間で対応することが求められます。瞬時に状況を把握し優先順位を判断して、そのスキルや正確性などが評価される採点競技です。今年度の全日本学生ライフセービング・SERC選手権大会では、男女共に表彰台の独占を成し遂げました。考えられる想定は限りなくあり、全部員が協力し練習を重ねたことで最高の結果を得ることができました。

ライフセービングにかかわる全てのトレーニングや大会は、水辺の生命を守る監視活動だけでなく日常のライフセービング活動まで繋がっています。これからも、どのような状況にも冷静に対応し、確実に救助できる力を磨き続けます。目指すのはただの勝利ではなく、守るべき生命を守ること。そのために何事にも全力で挑戦し続けます。

ダブルダッチ部

鈴木（1年保護者）

皆さん、ダブルダッチ（Double Dutch）ってご存じですか？ダブルダッチは2本のロープを使って跳ぶ縄跳び。3人以上で行い、向かい合った2人のターナー（回し手）が、右手のロープと左手のロープを半周ずらせて内側に回す中に、ジャンパー（跳び手）が、色々な技を交えて跳ぶ。音楽とダンス、アクロ、ステップ、スピードを融合させ、ジャンプロープでパフォーマンスを行うエンターテイメント性の高い競技だ。今年行われたパリオリンピック。正式種目としての選択はされていないものの、パリ五輪の様々な会場でパフォーマンスと体験会が行われた。その取り組みに世界三連覇の日体大卒のOBが参加し、世界的に活動を広げている。

毎年NYアポロシアターで行われる国際大会『National Double Dutch League』『Holiday Classicc』の出場権を勝ち取るために、まずは地区大会『Double Dutch Delight East』で勝ち上がり、『Double Dutch Delight Japan』日本代表チームが選出される。代表権を勝ち取るために、先輩達が築き上げたジャンプロープでのパフォーマンス、絆を現部員も引き継ぎ『乱縄』として活動している。今後の活躍も目が離せない。

ダブルダッチ部 主将 三輪卓海です。

現在ダブルダッチ部は総勢約50名で活動しており、大会でも毎年功績を残しています。

授業終わりに練習場所に行けば仲間がいて一緒に練習する、そんな環境が私は大好きです。来年も先輩方が築いてきた「乱縄」をより広め強くして行きます。応援よろしくお願い致します！

ダンス部

古賀（4年保護者）

学友会ダンス部は、創作ダンスを軸に日本舞踊や和太鼓などあらゆるジャンルに挑戦している部活動です。

今年度参加した大会と成績は

- 第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸
  作品名「TO ～もし見ることができるなら～」　入選
- ダンスワールドカップ日韓予選Dance World Cup Japan D
  シニアlargegroupコンテンポラリー部門
  作品名「And still we rise」
  シニアlargegroupコンテンポラリー部門1位
  largegroup部門1位
  兵庫県知事賞受賞
  ワールドファイナル（決勝）出場権獲得（2025年7月スペイン開催）
- 第43回あきた全国舞踊祭群舞部門
  作品名「覆りゆく定義　－273.15°の世界で」　3位入賞
  作品名「慟哭に微笑みを」　入選
- 第43回あきた全国舞踊祭エキシビジョン公演にて昨年度 最優秀群舞賞を受賞した「無名の時計職人ハリソンの夢ー経度測定実験航海ー」披露
- 第61回体育研究発表実演会にてMISIA「君の願いが世界を輝かす」披露
- 第58回日本体育大学ダンス部創作ダンス発表会にて和太鼓・日本舞踊・創作ダンスを披露

年間を通して挑戦を続けているダンス部の応援をどうぞよろしくお願いします。

2025年度 日本体育大学 東京都保護者会総会・講演会のご案内

下記のとおり「2025年度 東京都保護者会総会」等の開催を予定しています。
本年度も、総会終了後に講演会を企画しています。皆さまのご参加をお待ちしています。
なお、講演会は、東京都同窓会との共催となりますが、東京都保護者会総会としての開催ですので、講演会のみの参加および東京都保護者会の会員以外（同窓会会員を除く）の方の参加はご遠慮ください。

記

❶ 日　時	2025年**6**月**28**日(土) 13：00から（予定） （受付12：30より、開会5分前には受付をお済ませください）
❷ 場　所	日本体育大学　東京・世田谷キャンパス（キャンパス内会場未定）
❸ 総　会	2024年度 活動・決算報告 2025年度 活動計画・予算案・役員選出等
❹ 講演会	講演者「　未定　」
❺ 懇親会	予定しております

※１　日時および会場、講演会などの詳細については、2025年5月中旬までに案内はがきをお送りする予定です。
※２　【問合せ先】（Eメールアドレス）nssu.apg.tokyo@gmail.com
※３　会議室内はエアコンを使用します。必要に応じて上着をご用意ください。
※４　駐車場の用意がございません。お車での来場はご遠慮ください。
※５　行事内容に変更の場合がございます。

☆当日は、東京都保護者会役員が大学正門付近などで「日本体育大学東京都保護者会」の“のぼり旗”を持ち、ご案内しています。遠慮なくお声掛けください。

2024年度　東京都保護者会　役員メンバー

編集後記

竹内（1年保護者）

東京都保護者会の楽しそうな雰囲気に誘われて、活動へ参加するようになりました。キャンパスツアーでは野球部の皆さんにご協力をいただいて、広い健志台キャンパスを巡りました。構内案内と余暇の話も交えて、学生と保護者がお互いに礼儀をわきまえて過ごす時間は子育て後の親の心構えを知る良い機会にもなりました。例年、保護者会では様々な企画を行っています。ここではそれぞれに世界観を持ち、深追いし過ぎない集まりで和気あいあいと取り組んでいます。

今回、紙面でご紹介しきれなかった世田谷キャンパスや部活動の様子など、まだまだお話ししたいことがたくさんあります。来年度は、皆さんもご一緒に誌面を作って行きましょう。東京都保護者会へのご参加を、心よりお待ちしております。